

## 平成23年度第1回柏原市図書館協議会議事録

1. 日 時 平成23年7月4日（月） 午前10時から午後0時15分まで

2. 場 所 市民文化センター2階講座室

3. 出席者

出席委員

大西 文治	家庭教育活動者（公募委員）
阪本 豊子	家庭教育活動者（公募委員）
下山 晶子	社会教育関係者（PTA協議会）
高鍬 裕樹	学識経験者（大阪教育大学准教授）
出野 光広	社会教育関係者（こども会育成連絡協議会）
中村 保治	学識経験者（市議会議員）
蛇草 真也	学校教育関係者（堅下南小学校長）
濱浦 佳子	学識経験者（市議会議員）
吉見 静香	社会教育関係者（社会教育委員）

欠席者

松尾 隆子	社会教育関係者（図書館ボランティア）
-------	--------------------

事務局

教育長	稲田 邦敏
生涯学習部長	岡本 彰司
柏原図書館長	山本 良次
参事	至田 勝紀
国分図書館長	山路 茂樹
柏原図書館主査	北野 良一
柏原図書館主査	増井 良年
柏原図書館	児玉 太津男

4. 案件

(1) 会長・副会長の選任

(2) 平成22年度の活動報告及び平成23年度の事業計画

- ① 職員の配置状況
- ② 図書館の費用について
- ③ 蔵書状況について
- ④ 貸出状況について
- ⑤ 館内整理日の臨時開館に伴う利用状況について
- ⑥ 図書の予約状況について
- ⑦ 図書館の指標について
- ⑧ 平成22年度の事業結果報告について
- ⑨ 平成23年度事業予定について

⑩ その他

- I 利用実態調査の結果について
- II 利用者アンケートの結果報告について
- III 図書館システムの更新について

5. 議事の内容

司 会

おはようございます。定刻になりましたので、ただ今から、平成23年度柏原市図書館協議会を開会します。皆様方には、本日、公私なにかとお忙しい中ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

進行を務めさせていただきます図書館参事の至田でございます。本日の会議は柏原市まちづくり基本条例第15条の規定により公開の対象となっておりますのでよろしくお願い申し上げます。それでは、開会に先立ち稲田教育長よりあいさつを申し述べます。

<教育長挨拶>

司 会

次に、教育長から任命書の交付を行いたいと思います。教育長が自席に赴き交付させていただきます。

<任命書の交付>

司 会

<出席委員の紹介>

<事務局の紹介>

<資料の確認>

<教育長退席>

それでは、議題に入ります前に、本日の会議の成立状況でございますが、柏原市図書館協議会条例第5条第2項に委員総数の1/2以上の出席が成立要件となっております。本日の出席者は委員10名中9名の出席で、協議会は成立しています。

はじめに役員を選出を議題といたします。

本協議会の会長並び副会長の選出をお願いしたいと思いますが、どのようにさせていただきますでしょうか。

(「事務局に一任します。」の声あり)

ありがとうございました。

只今、事務局一任との声がありましたので、会長には学識経験者で大阪教育大学准教授の高鍬先生に、また、副会長には学校関係者で堅下南小学校校長の蛇草先生に引き続きお願いしたいと思います。

異議がなければ、拍手をもってご承認をお願いいたします。

(拍手)

ありがとうございました。それでは新会長からご挨拶をいただきます。よろしくお願い致します。

<会長挨拶>

会 長

それでは、次第により順次議事を進めます。

まず、議事案件3番目、「平成22年度の活動報告及び平成23年度の事業計画」1番から7番について事務局から説明願います。

事務局

事前に送付しました「平成22年度柏原市の図書館」の冊子と、別添の資料に基づき説明をさせていただきます。

資料①をご覧ください。職員の配置状況ですが、平成22年度中に柏原図書館の係員1名が退職し、年度末現在で1名減の10名となっています。平成23年度の当初比較では、柏原で嘱託職員が1名増の12名で、国分では週30時間の再任用職員1名増の12名となっています。

なお、司書については国分の館長が異動により1名の減となっています。

続いて資料②の費用年度比較であります。平成23年度予算でアルバイト賃金が半額となっています。配当枠予算となっておりますが、最終的には前年度と同額程度になるものと考えています。

次いで、平成23年度予算の委託料で200万円の減の理由としては、後で説明しますが、22年度での電算保守メンテ料が電算システム更新事業により23年度では賃借料に含まれることからその部分が減となっています。

賃借料については、電算システムの更新に伴い、保守メンテを含む6カ月分の380万円を計上しています。

また、図書購入費につきましては、平成22年度に国の地域活性化・住民生活に光を注ぐ交付金400万円の補助採択を受け、23年度に繰越し、平成23年度に執行している状況であります。

図書については、いつでも、どこでも、誰もが気軽に利用することができる図書館運営を目指すため、特に日常で購入することができない視覚障害者、高齢者を対象とした大型活字本1,100冊と、児童書の総合百科事典を2館に配備しました。次いで録音図書、DVD等を順次購入していく予定であります。

資料③の図書の蔵書につきましては、平成22年度末で219,851冊、平成21年度末214,260冊に比べ5,591冊の増となっています。内訳としましては柏原で5,802冊、国分で5,092冊、合わせて10,894冊を受入れしています。そのうち9,973冊を購入し、残りの921冊はライオンズクラブからの10万円相当分の大型絵本の寄贈や市民からの寄贈又は紛失等による弁済受け入れとなっています。

一方、除籍につきましては、柏原が4,395冊、国分が908冊の合計5,303冊で、そのうち2,193冊は柏原病院やホットステーションへの移管や国分のリサイクル市用に転用しています。

続きまして、資料④の図書の貸出状況であります。平成22年度では425,861冊、前年度の428,787冊に比べ2,926冊の減となっています。児童書で柏原では6,764冊の増、国分では1,455冊の減で合わせて5,309冊の増となっています。一般書では、柏原で3,434冊の減、国分でも4,801冊の減で計8,235冊の減となっています。要因としては、人口の減少と新刊図書の予算減に伴うものと考えています。このことから限られた予算であります。市民のニーズに沿った質の高い図書を受け入れて行く所存であります。

資料⑤の館内整理日の臨時開館に伴う結果であります。利用者の拡大と市民サービスの向上を図るため、平成18年度から祝日開館を実施しているところであります。更なる拡大を図るため、館内整理日の最終木曜日を平成23年1月から柏原図書館は偶数月、国分図書館は奇数月を試行的に開館したものであります。このことにより、貸出冊数の増を期待しているところであります。

なお、平成22年12月につきましては、年末年始の関係で29日の図書整理日を柏原、国分2館とも開館いたしました。本年1月からの実績であります。平日の利用よりやや少ないように思いますので、更なるPRに努めて行きたいと思っております。

次に、図書の予約状況であります。平成20年度に比べ来館及びインターネットによる予約が増加してきています。後で図書館システムの更新について詳細な説明をいたしますが、インターネットでの予約が増加するものと思っております。

#### 事務局

資料⑥の図書館指標についてであります。平成16年度の類似市貸出上位10市での図書館数は3.5館となっております。蔵書、貸出冊数などの推移から市によっては町村合併によるものと考えています。

登録者数については、22年度58,815名になっております。75歳の高齢者登録の実態調査を行い400数名ほど除籍しました。23年度においても住基の確認作業を行い約2,000名登録者が減少するものと考えています。

蔵書数では、国分図書館の当初目標予定の7万冊を超えましたが、更なる蔵書の確保に努めていきたいと思っております。

図書購入費につきましては、21年度までは予算が1,000万でしたが、行政改革、また、国分図書館7万冊を達したことで、他の部局同様に100万円減の22年度及び23年度では900万になっております。しかしながら先ほどの400万の交付金を活用し、順次購入しているところであります。

蔵書回転率については若干下がっている状況です。

市民1人当たりの蔵書冊数は、人口減の影響もあり、若干上がっております。

市民1人当たりの貸出冊数としましては、10年後の平成32年で10冊を目指していますが、伸び悩んでいるのが現状であります。なお、5年後の平成26年度で市民一人当たり7冊位を目指しています。

#### 事務局

22年度の事業結果であります。16、17ページをご覧ください。

柏原、国分図書館両館で主催事業と展示そしてボランティアグループによる共催事業などを掲載しています。

ボランティアグループの「ぶっくパフェ」による2カ月に一回のプチライブやおはなしライブを開催し、本の読み聞かせや紙芝居を行っています。また、年2回、「お話パクパク」という大きな催しを行うとともに1月には国分図書館で新たに「かるた大会」を開催いたしました。

また、「てんとう虫の会」による柏原で「紙芝居とおはなしの会」を月1回土曜日に開催しています。当初は小さいお子さんが来なかったが、最近はベビーカーに乗せたお子さんも参加されています。

それと、国分図書館では「いちごクラブ」と「夢の船」というボランティアさんによるお話もされています。

1 1月には国分図書館でライオンズクラブと共催による「子ども論語塾」を開催しました。

2 3年度の事業計画についてであります。資料の⑦に載せています。引き続きボランティアさんによるお話の会をしていきたいと思っています。なお、下半期であります。国分図書館では、10月に「原画展」、11月に本の「リサイクル市」、1月に柏原、国分で「かるた大会」を開催するための準備を進めています。

会 長

① から⑦まで説明又は報告がありましたが、質問は、ありませんか。

では、私から聞かせていただきたい。

聞き洩らしたかもしれませんが、資料④で分類別貸出年度比較表の中で、全体としては、柏原市の図書館全体として貸出冊数は下がっています。唯一上がっているのが、柏原図書館の児童書だと言われました。これ以外は下がっている。柏原図書館の児童書だけが70,258冊から77,022冊と6,737冊の増となっています。何か増の要因は考えられますか。

事務局

何故、増えたかという要因は特に掴んでいません。

会 長

そこは、大きなところだと思います。

国分図書館ができてから今まで5年位ですが、国分図書館によって増えてきたイメージがありましたが、ではなく国分図書館が少し落ちこんできて、逆に柏原が伸びたというのは今までと違う何かがあったのではという気がします。たとえば、可能性ですが、新しい団地ができたとか、住んでいる人の何がしか変わったとか、それがあればそれに対応していかななくてはいけないのであって、変わったということの要因・理由を把握していかなければと思います。

何か質問は、ありませんか。

委 員

私は、傾向と思います。子どもの本の貸出が多いというのは、子どもが関心を持っているということ。子どもだけでは来ないです。親御さんと一緒に来たり、おじいさん、おばあさんと一緒に来たりしています。非常に、これからの図書館の利用としては歓迎すべきことです。

今後、絵本など、いい物、飛びつきそうなものを選んでおいていただく。また、その宣伝をしていただけたらいいと思います。

一般が減ったというのは残念ですが、しかし、子どもが図書館を利用するようになれば、連れてきた親も私も借りようかと利用するようになるので、いい傾向だと思います。また、その原因は考えていただけたらいいと思います。

会 長

全体としては増えているのですが、国分図書館が減っている。

国分図書館はもともと新しいものが入って、その利用が増えていたが、今その新しいという要素が国分図書館からなくなっているのかもしれない。

そうするとこれからの国分図書館は苦しい。

それは、資料についててこ入れするとか、何らかの対応が必要と思われる。

どれくらい児童書を買って、一般書を買うかについては、どのくらい利用されているか大きな要素になり、分析が必要になる。

委員

僕の推測ですが、ネットを使う世代、大人の方の一般書は減っています。児童書を読む世代はネットの利用は低いと思います。

国分地区には本屋さんはなくなっている。柏原地区も1店舗になっている。本屋さんに行っていた子どもが図書館に来ているのではないかとも思われます。

会長

可能性としてはあり得ることですね。地域全体の情報環境がどうなっていて、図書館がどのような役割を果たすべきなのかを考えなくてはいけないと思います。

委員

蔵書は増えているのですね。国分図書館の児童書。それなのに、利用は少なくなっています。天文学、自然科学の本が増えていますね。本が増えている割には利用が減っているのは、子どもの興味があるものが少ないとも思われますが。

事務局

柏原図書館には漫画の本はおいていません。国分図書館では開設当時、いろいろご意見を頂き、購入する余裕がないのですが、図書司書などが自宅にある本を持ってきて貸し出しています。

子ども図書館、後で概要説明もしますが、国分図書館は子ども図書館として2階を専属しています。

貸出冊数だけの比較ではなく、国分にはインターネットがあることから子供の実際の利用数は多いです。

委員

国分図書館は開設当初より、児童書が充実してきています。でも一般書では少し詳しい、少し奥深く入った本がない。柏原図書館の方がまだ少しある。

国分図書館は車で行く人が多いが、大人の方はわざわざ調べものだけで行く、又は新刊書を見に行っても初めからないと思い、それで八尾、志紀に行く。国分図書館も初めは本がなかったが、ようやく充実してきた。

先生も言われたが、これからは分析していただき、時期により人のニーズは違うと思う。柏原はこれでいいが、国分はどうか。相乗効果というか、せっかく二つあるのだから、柏原にはないが国分にはあるなど、そのような形でしていただきたいと思う。

国分はまだまだ充実していなくて、好きな人の本は全部読み切って、新しい本はないとよく聞きます。そういう風なことをお願いします。

委員

僕も感じたのですが、会長が言われたように分析がなかなかハッキリ見えないということ、逆に分析をきっちりする体制も必要と思います。地域性も関係ありますし、アゼリアができてから人口も増えて、図書館利用も増えたなど色々な角度で考え、分析結果を形にしていってほしいと思います。

本会議で紹介しましたが、三重県の小さな町立図書館ですが、子どもさん、お年寄りであれ、町の中でどこが一番誇れますかという問いに、皆さん、図書館を一番に挙げている。私も視察に

行ったのですが、何も見た目は普通の図書館に見えました。しかし、入った瞬間にディスプレイ、要するに目玉になることをきっちり謳っている。費用をかけるのではなく、学校図書館との関係も同じで、学校図書館にはこういうのを目玉にしているというディスプレイもあり、子どもがそれを見て学校図書館に借りに行く。連動している。

専門の司書の方が入っておられて考えているのですが、ちょっとした工夫で借り方、見方、利用の仕方が変わり、図書館を誇れるようになっていく。ここ1、2年の取り組みで、テレビでも紹介されていますが、難しいことをしている訳ではない。ひとつは図書館マニフェストを掲げて、今年度はこういう形でという目標を掲げてそれを達成するために日々が裏付けされている。部屋にも入れてもらいましたが、折れ線グラフが貼ってある。

一度、市長にも提案しましたが、良ければ図書館の方にも資料を提供しますので、新しいものではなく、現存のものを工夫するだけで変わってくる。

一番大事なものは、国分図書館がそれなのです。小さい子どもさん向けには成功したが、今後は、高齢者が増えているので、高齢者の方も来やすいように、高齢者の方とお孫さんが一緒に見られるような工夫も必要だと思います。

それと、出前講座。色々されていますが、たくさんのボランティアの方が活動されているのを知っている人は知っていますが、児童図書館の関係者が出前講座として目玉になることを企画して考えていただくのもひとつかなという声が出てきています。国分図書館が近い遠いも1つの問題でしたが、図書を移動していくような流れもいるのではということを出前講座も提案します。

会 長

他に質問などはありませんか。

先ほど、八尾市立志紀図書館が柏原市民も使えるということでしたが。それは、相互教育協定か何かですが。

事務局

広域行政の中で、昭和58年に柏原市、八尾市、東大阪市の3市広域行政の中で、地域連携という形で、柏原・八尾・東大阪の市民あればいずれの図書館で貸出利用できるということです。

会 長

その場合、八尾市の図書館を柏原市民が多く利用して、八尾市民が柏原市の図書館の利用が少ない。八尾市民が聞けば問題だと思います。どれくらいお互いに利用しているのかわかりますか。

事務局

ちょうど、中部の9市の市長会で地域連携という事で図書館を利用したらどうかという話がありました。

6月29日河内長野市で各市の館長が集まり、平成24年7月を目途に地域連携として中部9市で全ての図書館で市民が利用できるようにするという事になりました。考え方は従来の在学・在勤を広げたものであります。

八尾市の図書館には、柏原市民が2.9%の5万5千冊、東大阪市民が1.7%の3万3,865冊、大阪市民は1.8%の3万4千冊貸出しを受けています。

一方、柏原市の図書館では八尾市民は2.7%の1万1640冊、東大阪市民は0.1%の525冊です。

東大阪市では、八尾市民が0.9%の1万8454冊、柏原市民が0.1%、1648冊の利

用となっています。

特に志紀の図書館は、地域によっては柏原の図書館よりも志紀の図書館の方が近い方もあります。法善寺3、4丁目、本郷、今町2丁目の方の利用が多いと八尾市から聞いています。

会 長

柏原市の市民は、八尾市から5万冊の貸出しを受け、柏原市は八尾市民に対して1万冊の貸出しをして、5倍の貸出しを受けているわけですね。これは、いいことなのかどうなのか、もちろん得はしているのですが、互助互恵の関係からは遠いのかなと思います。お互いに助け合っているというより、一方的に助けてもらっているのは自治体関係の中ではあまりいい方ではないという気がします。それは柏原図書館の発展の中で解消できればいいと思います。もちろん柏原市図書館が発展すれば、よりよいサービスがあれば八尾市の方の利用も増えますので、改善をお願いしたいです。

会 長

何かほかにありますか。もう1点、図書館の指標比較の中で類似市の貸出上位10市の平均が平成16年なのはなぜですか。

事務局

国分図書館が平成16年度に開館し、比較がしやすいということで、基礎資料としていたしましたが、ご指摘いただきましたので次年度からは直近の指標を提示させていただきます。

会 長

5年の間に上位10市は、伸びているはずですが。平成20年の柏原市の指標は決して高いとは言えません。もちろん、上位10市の平均であって、目標とすべき数値であって、全国平均であれば、柏原市はだいたい平均くらいで、回転率では、柏原市はちょっと低い位、市民1人当たりの貸出数は5.7で、これは少し高いです。全国平均位ということですが、日本の図書館の中ですごく悪い所もあり、すごく良い所もあるので平均がいいというわけではない。これは何らかの工夫が必要かと思います。もちろん図書購入費が減るとするのは、昨今のご時世でどうしようもないことでもあり、その中で考えると、何らかの工夫でもう少し伸びないかなと思います。

先ほど出ました、光を注ぐ交付金400万円は全体が資料費に回る予定ですか。

事務局

400万円全額資料費になります。

会 長

そうすると1,300万円、今年度使えることになりますので、これまでよりもう少し改善できることになるかと思います。

何かほかにあるでしょうか、なければ、次第の案件8番9番、図書館実利用者実態調査結果と利用者アンケート結果について事務局から説明願いますか。

事務局

利用者の実態調査結果で、昨年度協議会で、柏原と国分の利用者の動向等について指摘を頂きました。また、図書館にどれだけの方が来館されているかも分からない状況でありました。このことから昨年11月17日から2週間、カウンターで調査しました。

12月2日まで柏原、国分あわせて延べ9,490人が来館され、その内貸出者数は4,654人で、約2人に一人が貸出利用者で残りの半数が閲覧、学習室のみの利用となっています。

利用者数は、土曜、日曜の利用が多いということが数値として顕著に表れています。

国分については、児童図書館としての位置づけで、実際貸出した方423人に対して、利用者数が2,000人ということで、約5倍の方が利用されている。この結果多くの児童が閲覧、インターネットのみの利用となっています。

次に利用者のアンケートということで、平成21年に総合計画の関係で図書館についてのアンケートを行いました。社会教育施設の図書館、公民館の満足度は5段階で、3.24、重要度については3.92という高い数値をいただきました。利用者、貸出者数をいかに増やすかというための参考にするため、利用ニーズの把握、図書館司書の配置、蔵書の収集について2月3日～23日まで、利用者に2月3日から3日間はアンケートを手渡しで、それ以降は、用紙をおいて行いました。結果749名のご協力を頂きました。内容ですが性別割合は女性60.9%で高くなっており、年齢層は60、40、30代が多く、20、10代が少ない。利用頻度ではほぼ毎日、週2、3回、月2、3回と結構利用されている方が大多数となっています。

目的の図書、資料が見つけれなかったときはどうするかについては、職員に聞くが43.3%でもう少しレファレンスについてケアしていかなくてはと思います。

利用したことにあるものすべてについては、図書の貸出し・閲覧、新聞・雑誌の貸出し、DVD、CDの貸出し、図書資料の予約など貸出サービス等を目的とした利用が高いと思われます。

貸出期間については、現行2週間以内をもう少し期間を延ばせることで貸出冊数が増えるかと思いましたが、68.3%の方が現行通りの2週間となっています。

貸出冊数については、15冊20冊という答えが出るかと思いましたが、アンケートの中では10冊が大半。本が重い、読み切れない、などで理由と思われます。

一方、子どもの場合も同様の結果となっています。

次に、図書・資料でもっと充実してほしい分野は、日本文学、雑誌、ビデオ、裁縫・手芸、住まいが高くなっています。

これらは蔵書数と貸出冊数と比例とまではいきませんが、できていると思います。児童書についても、同様に絵本などお話分野、選書について参考にしたいと思います。

主だった意見ですが、おほめの言葉もありますが、おしかりの言葉もあります。中には思い違いの部分もあり、職員も説明の問題もあるかと思っています。

この中で、要望の高い雑誌の貸出しについて現在1冊を2冊までにと考えています。時期としてはシステム入れ替えに合わす予定です。

会 長

ありがとうございます。何か質問はありますか。

委 員

ビデオ・DVD・CDが抜きこんでいるのは、数が少ないので回転率が良くなり、この数字が出ているのではないか。

国分では、私は2年位前、完全に見終わっています。数字だけでみたらすごく利用しているように見えますが、新しいDVDを入れていただいたら、また、利用しますが、この数字だけで利用が多いと考えない方がいい。

一般書のアンケートで、1位が日本文学なっていますが、女性なら雑誌の利用が多く需要があります。雑誌って、一部だけ見るのではなく、全部見たくなる方が多いです。常に棚にあるのは、

貸出できない新刊と去年の雑誌が棚に入っている状態です。

需要数が多いのは、雑誌であっても、その雑誌を見に来ることによって違う本も見ようということに繋がりますので、需要数が多いのは回転数がいいからそれでいいのではなく、見直していただきたい。

30代の女性は、新しい新刊はインターネットで読んでいます。

図書館に行って、検索しますが棚が分からない、それを探しているうちに疲れる。興味のあるものをみるとしても、新刊の案内はあっても貸出中。1週間後に行っても、まだない。本屋に行って本を買うとか、結果的にはもういいかということになる。

60代の人が増えてきたら、その人たちが借りたい、読みたいものを考慮しなくてはいけない。

図書館は全体的に見るのも大事なのですが、ただ、本があるだけの建物ではうれしくない。

事務局

ビデオ、DVDを、図書館に置くか置かないかの議論が以前あったようです。

ビデオの一部には100回を超えている物があり、その辺はどうしようかと思っています。図書館の本来の業務からすると、図書館でDVDを購入すると1巻は1万5千円位かかります。通常だと3千円程度です。このことから本を優先すべきであるのご意見が多かったように聞いています。ご承知のように柏原方面にDVDのレンタル店がなく、国分に一軒だけの状況であります。

会 長

図書館は「図書館」と書きますが、社会教育のための施設というよりは、民主主義を守る機関として選挙とか市民がなんらかの意志行使をする時に情報提供して判断できるようにするのが図書館の本来の役割と言われている。

その情報は文字であれ、映像であれ、インターネットあれ、提供すべきで、DVDだから排除するというのはおかしい。費用がどれだけかかるかという問題があって、提供できないということがやむえないこともあるかと思いますが、図書館が図書のみ扱うからというのではなくて、現実的にどのようにするのが市民に最もたくさんの情報を提供できる方法か、費用対効果を考えるべきもの。図書を提供するから、例えば先ほど出ましたが、漫画について、漫画だから提供しないというもおかしい。

情報として市民が必要とするものは、全て提供すべきで、近代社会の理念です。

事務局

これについては、協議会の中でいろいろご意見が過去にございまして、一般貸出しができないものもあります。DVDやCDもおいていますが、以前も協議会の中で進んでおく必要はないという意見があったことでそれ用に予算を新たに組んでいないのが現状であります。

会 長

他にご質問は。

委 員

利用者アンケートの結果で、年齢層のところで、柏原と国分を分けて出してもらっていますが、国分が年齢の高い方の利用が多く、10、20代が14%程で、ということはコンセプトが違ったのではないかと、良い悪いではなく、図書館が目指したものが児童に対して積極的にアプローチすることを目指したのであれば、失敗したのではないかと判断すべきだと、それでは国分図書

館をどう使うかという議論が出てくると思います。

事務局

このアンケートに関しては、10歳以上を対象者とした関係で若干、実態とは合っていないかと思えます。

委員

アンケートはそれで良いのですが、柏原図書館と国分図書館とを比べた場合、明らかに国分図書館の方が10、20代の利用が同じ条件で少ないです。

柏原の方も0～10歳含めてないですよ。明らかに柏原図書館の方が子どもの利用が多いということです。国分図書館が造った、運営時のコンセプトが子どもを強く意識していたのだと思いますが、それを比べると違う事になっていると思うのですが。

事務局

先ほども出ましたが、児童の利用は国分の方が多いです。アンケートの配布や回収方法が施設の立地条件で少し異なったようであると聞いています。いずれにしても結果的には、アンケートを対象とした10歳以上の児童の利用が少なくなっています。

委員

どちらにしても10歳を超えた方だけのアンケートですよ。これだけ違いが出ている。40、50代が国分は多いです。

国分図書館を児童図書館という位置づけはあまり聞いたことがない。アンケートをとったわけですから、その上でちゃんと分析をした方がいい。10歳まで国分図書館の利用が多いですというのを抜きにして。率直に国分方面が、高年齢の方を含めて利用者がアンケートに答えているということで、先ほど会長も言われましたが、コンセプトと違ってきているのでは、ということに対しては、逆にそのようなコンセプトであったかお聞きしたい。

事務局

子どもで、アンケートに答えることができるかどうかで、低学年の場合、読み取れるかどうかで若干変わって来たと思う。高学年は的確な回答がもらえる。低学年以下については、欄があるので保護者に書いて下さいと言いました。10代については、柏原16%で国分6.4%、約10%回答者に違いが生じました。

委員

10代以下のことを問題にしている訳ではない。10代以下が入っていないのはそれでいい。国分図書館は子ども図書館、児童図書館とか位置付けされていますが、それはいつからコンセプトとされているのですか。

事務局

全体ではなく、2階、3階とわかれているので2階は子ども図書館として児童サービスを目標の一つとして運営しています。この部分については子ども図書館と考えています。全体を子ども図書館というコンセプトで運営していません。

委員

柏原と国分とこんなに違いが出ていますが、これはどのように分析されていますか。

事務局

ご指摘いただいた件については、国分の方が利用は多いと現実的にはみていますが、アンケー

トの結果とは繋がらなかった。統計的には利用実態と合致していなかったと思います。

委員

国分図書館は貸出しではなく、お子さんがたくさん利用されている、9歳や小学1、2年生がたくさん来られているけど、アンケートを出してないお母さんと一緒に来たとか、お母さんは出したけど子どもさんのことは出してないなどあったと思います。

雰囲気的にみて、国分図書館の方が子どもさんの利用がある。利用している状況は多いということです。それが的確に出ていないだけで、利用の風景はある。低学年、幼児は大勢来ているが、雰囲気的には多く利用している。貸出しとは関係なしに利用している子どもさんは多いと思います。的確に出てなかっただけだと思います。

委員

10～19歳というのは小学生高学年から高校生ですね。

低学年で親に連れられてくる子の利用がある。このグラフを見てわかったのは、自分で来れる子、小学生高学年、中学生、高校生には国分図書館は魅力がないのだということです。その結果がこのアンケートに出ているのです。

年齢的にばらつきがある図書館は欠陥があるというか、魅力がないということです。だから、会議している間にできたらそういう子たちをどのようにして惹きつけられるようになるか。各中学校に対して、図書館利用が何故できないか、アンケートを取ってもらうとか。そうしたらクラブが終わったら図書館が閉まっているとか、貸してもらえない。学校の図書館も私も中学校・小学校の図書館に行っていますが、貸出時間もお昼休みなど限られている。短時間でしか利用できない。どこで調べるかということになる。もっとこの子たちが惹きつけるようなものを打ち出せば、国分ももっと平均された図書館になると思います。

柏原はもともとこういう子たちに対して興味をひく本があると思います。だから自転車でも借りて帰ろうか、行こうかという事になる。これが初めて分かったのが良かったな、ひとつ解決策がでたのじゃないかと思います。

委員

アンケートで一般書も児童書もビデオ・CDを入れてほしいというのが多いのですが、蔵書数をみると、一般書も児童書も蔵書が減っている。この蔵書の割合から、貸出の比率をみたら図書よりもビデオ・CD貸出回数はものすごい回数になっている。

23年度からのビデオ・DVD・CD関係の予算はどのようになっていますか。

事務局

今年度はこれから始まりますので、交付金の関係も活用しながら進めていきたいと思っています。

委員

ビデオ・DVDなどジャンルは広いですね。アンケート結果でも需要が多いです。

一般書と並ぶくらいビデオ・DVDも1つの項目として、その中に映画などジャンルを分けて行ってもいいのではないかと思います。

事務局

限られた資料の中で、いかに効率的にやっていくかということで、今すぐどれだけのご要望に応えられるかとは思いますが、充実していかなくてはいけないと思っています。ただ、即、それ

があらわれるかなということです。予算のこともありますが充実はしていくつもりです。

委員

お金がないのはわかりました。ビデオ・DVDの需要が多いなら、広報などで不要な物が図書の寄付もありますので、ビデオ・DVDも募集をかけてはいかがでしょうか。

事務局

著作権の問題があり、それを貸し出すというはできません。

委員

貸し出さず、館内で見ただけではだめなのですか。

事務局

これは、DVD等は館内で閲覧可能のものと、著作権の関係でそれぞれ値段が違います。

あくまでも著作者の利益を守るというのが根本にあります。その点でビデオ・CDの充実も費用対効果で図書なら1千円くらいで手に入る、なら図書を充実させた方がいいという関係で、ビデオ・DVD・CDは費用がかかるという現状です。ニーズがあるということで今後は充実していかななくてはと思っています。

会長

著作権上は館内での上映は可能であると思いますが、非営利であれば。

著作権法は保証金を払うということとなっていますが、それは貸出についてで、館内の上映はそれに当てはまらないと思いますが。

委員

大勢で見るのはダメというのは聞いていますが、個人がブースで見るのは。

事務局

府の図書館や各市の状況も調査したうえで進めていきたいと思います。

会長

5番の今まで利用したことのあるものというアンケートで、図書の貸出閲覧について34.4%と36.4%なのですが、それでは後の65%の人は利用したことがないのですか。

事務局

多分、分母を間違えたと思います。

会長

調査の上間違っていれば、差し替えていただきたい。

会長

他にありませんか。次に行きたいと思います。

最後の図書館のデータシステムの更新についての報告をお願いします。

事務局

図書館システム更新について報告したいと思います。図書館電算システム更新事業行程表を資料10ページに付けております。

柏原市立図書館では今年で図書館システムは7年目に入り、機器の老朽化及びIT環境などの進展により新しい図書館システムを10月導入する事になりました。機器の入れ替えは9月末の3日～4日程度の休館にて行う予定です。

今まではパソコンでの、検索・予約だけでしたが、あらたに携帯端末からも検索・予約などが

でき、また今までは貸出中の資料（2万冊）のみに、予約が出来ましたが、図書館の書架にある資料（20万冊）にも、予約ができるようになります。これで利用者の利便性がよくなるかと思えます。そして、今のアンケート、国分の意見で小さい子どもさんを連れて、本を探すのが難しいということがありまして、確かに、小さい子どもさんを連れては選びにくいと思えます。以上で報告を終わります。

会 長

ありがとうございました。

図書館のシステムの更新について質問は。

1点だけ。貸出ししないし、貸出しのない資料も予約できるようになると言われましたが、確かに利用者には利便性が高まりいいと思えますが、一方、現在書架上にある資料を引き上げてくるという図書館職員の作業が必要なので、その作業について十分な人手の手当はついているのでしょうか。

事務局

この場合、朝の開館前に職員の方で行います。

会 長

そうすると前の日の予約は次の日の朝に出すということですね。それは、そういう形で周知しないと、その場合では、バッティングが起きる可能性があります。今日予約したのに、取りに来た時、それが先に取られたという可能性がないとも限らない。図書館が予約資料をどう扱うかを利用者に周知徹底しなくてはいけないと思えます。

事務局

予約の本を準備できた段階で本人に連絡しています。

会 長

朝の10時に開館した後、予約を入れた人がいても、次の日の朝の処理ですか。

事務局

次の日の朝に予約の受付をするので、あくまでもこれは仮予約で、本予約は朝の9時の開館前に職員がします。

会 長

そうすると、仮予約しても実際には借りられないという可能性がある。

事務局

書架にあるということになりますが、他の利用者が借りられて、その後になることがあります。

会長

そうすれば、どちらが優先されるかということを知り徹底していないとややこしくなると思えます。

事務局

それに関しましては、来館される方が優先されることになります。

会 長

それは周知徹底させる必要があります。

全体について、意見又は提案ありますか。

委 員

一番、お願いしたいのは、大型活字の本など、いろいろ買っていただくのですが、一番下の棚にまっすぐというのはとても見にくいです。

高齢者にとっても、子どもにとってもみにくいです。一番下の棚は少し見やすいように傾斜するということはできませんか。

利用者にとって何が大切かというのは本の名前が見えること。

それが、かがんだり座り込んだりしないというのはとても探しにくい。

だから、整理する時に傾斜できないかということです。

また、棚を購入する時など何をされる時でも新しく考えていただきたいと思います。

事務局

今、ご指摘の点については今後ということで、お願いしたい。

柏原図書館は奥に本が行きますので、見やすく、取り易くということで、本を後ろにあてて、後ろに行かないようにはしていますが、サイズがいろいろあって全てクリアできない部分もあります。今すぐに棚を入れ替えるとかは難しいですと考えています。

会 長

他にはありませんか？

それでは、本日の会議に付されました案件の全てが終了いたしましたので、これをもちまして平成23年度の柏原市図書館協議会を終了いたします。委員各位におかれましては、公私何かとご多用にも関わりませぬご出席賜りお礼申し上げます。これから猛暑が続くと思いますが、健康にご留意賜りますようお願いしまして、進行を事務局にお返ししたいと思います。

事務局

高鍬会長におかれましては、長時間にわたりまして議事進行をしていただきましてありがとうございました。また、各委員におかれましては、貴重なご意見を頂きありがとうございました。今後とも職員一同、市民が利用しやすい図書館を構築していく所存でありますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

なお、最後になりますが、本日の会議録につきましては、後日、各委員に持ち回りさせていただいて、図書館のホームページに掲載させていただきますことを、ご了承賜りますようお願い申し上げます、閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。